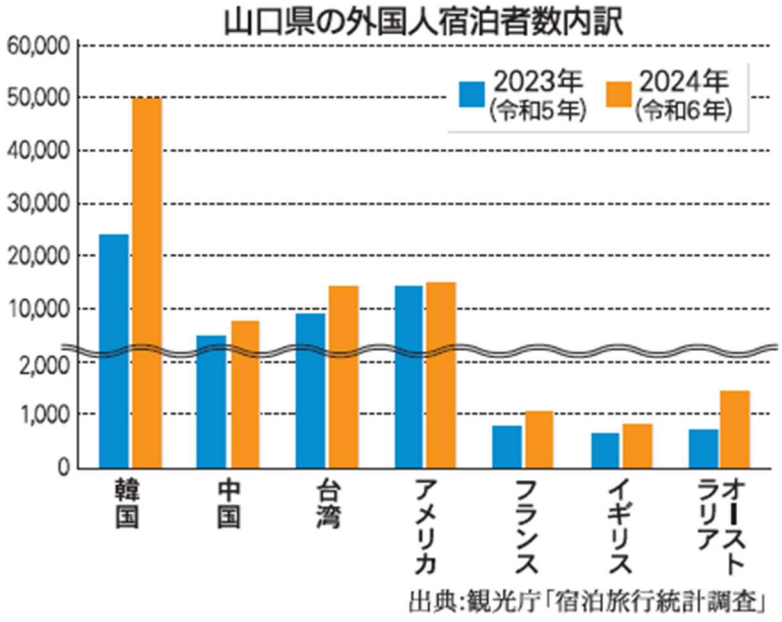
166　世界中からおいでませ山口へ

令和７年６月19日掲載

蒸し暑い時期が始まりましたが、夏休みに向け旅行の計画を立てておられる方もいることと思います。

今回は、観光庁の「宿泊旅行統計調査」から、山口県における昨年の宿泊旅行の実態について見てみましょう。昨年といえば、アメリカの新聞大手、ニューヨーク・タイムズ誌が「2024年に行くべき52カ所」の３番目に山口市を紹介していますね。

令和６年の山口県の延べ宿泊者数は、363万3980人で全国38位となっています。令和５年は361万9270人で全国39位でしたので、少し上昇していることがうかがえます。また、外国人延べ宿泊者数では、令和５年が９万1460人で全国44位であるのに対し、令和６年は全国順位は同じですが、12万3040人と大幅に増加しています。

次に山口県での外国人宿泊者の内訳について令和５年から令和６年にかけての推移を見てみますと、お隣の韓国からの宿泊者数が２万3940人から５万20人とおよそ２倍になっていることをはじめ、中国や台湾など、アジアの国からの宿泊者数が増加しています。アメリカは、１万4280人から１万4970人とほぼ変わっていませんが、ヨーロッパのフランスが810人から1100人と１・36倍、イギリスは690人から860人と１・25倍、オセアニアのオーストラリアは750人から1480人とほぼ２倍となるなど、遠方の宿泊者も増加しています。これからも、世界各国から山口県を訪れてほしいですね。

今回ご紹介したデータは観光庁のホームページで公開されていますので、ぜひご覧ください。